

国際公共政策学位プログラム (博士後期課程)
 Doctoral Program in International Public Policy

授与する学位の名称	博士(国際公共政策) [Doctor of Philosophy in International Public Policy]	
人材養成目的	国際関係論や地域研究、社会学、政治学、経済学、人類学、公共政策学など国際公共政策に関わる各分野のディシプリンに基づく高度の研究能力を基礎としながら、複数の分野を横断した俯瞰的・学際的視野をもって、国際問題、国内外の政治経済、社会問題等の本質を理解・分析することによって、変化する諸課題に対する問題解決・政策提言能力を備え、グローバルオペニオンを形成できる大学教員、研究者等を養成する。	
養成する人材像	国際公共政策に関わる専門知識や、理論・実証に関わる論理的思考力・分析力に基づいた国際水準の研究能力および、国内外の政治経済や社会政策上の諸問題、または個別の地域や国際関係の諸問題に関する政策分析・立案・実施に資する高度の実践的能力を有する人材。	
修了後の進路	社会科学・国際関係の研究職・教育職(大学等の教員、研究所の研究員)。それ以外に、官公庁・自治体職員、国際機関職員、金融機関やメディア等の民間企業、NGO・NPOなど、高度な研究力を生かした職業人。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	大学院共通科目、研究指導科目、演習科目、博士論文作成、中間発表、学会発表、研究会発表、ポスター発表、論文投稿等
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	大学院共通科目、国際公共政策プロジェクト演習、研究指導科目、演習科目、インターシッピング科目、達成度自己点検、博士論文作成、中間発表、学会発表、研究会発表、ポスター発表、論文投稿等
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつわかりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質をわかりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるとともに、質問に的確に答えることができるか	大学院共通科目、国際公共政策プロジェクト演習、研究指導科目、演習科目、中間発表、学会発表、研究会発表、ポスター発表等
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	国際公共政策プロジェクト演習、研究指導科目、演習科目、大学院共通科目(JAPIC 科目)、TA (大学院セミナー等)経験、プロジェクトの参加経験等
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	大学院共通科目(国際性養成科目群)、国際公共政策プロジェクト演習、国際関係分野を中心とした演習科目、外国語文献を利用した博士論文作成、国外での活動経験、外国人(留学生を含む)との共同研究、TOEIC 得点、国際会議発表、英語論文投稿等
6. 研究力: 国際公共政策分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力	① 国際公共政策に関する高度な専門性を生かして課題にアプローチし、オリジナリティのある研究成果を生み出しているか ② 国際公共政策に関わる研究成果を内外に発信するとともに、それに基づいた教育や指導を行う能力を持つか	国際公共政策プロジェクト演習、演習科目、博士論文作成、研究指導、論文投稿、学会発表、研究会発表、ポスター発表等
7. 専門知識: 国際公共政策分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力	① 国際公共政策の分野における高度な専門性や理論的思考に裏付けられた分析力を持つか ② 国際公共政策上の諸問題に関し、政策提言や解決方策を志向する能力を持つか	演習科目、博士論文作成、研究指導、中間発表、論文投稿、学会発表、研究会発表、ポスター発表等
8. 倫理観: 国際公共政策分野の研究者にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	高い倫理観に基づいて自らの研究プロセスを管理する力を持つか	大学院共通科目(生命・環境・研究倫理科目群)、国際公共政策プロジェクト演習、演習科目、研究指導、博士論文作成、中間発表、論文投稿、学会発表、INFOSS 情報倫理、APRIN e-learning 等

学位論文に係る評価の基準	
<p>1. 特定の研究課題を設定し、研究の意義及び必要性が明確に記述されていること。</p> <p>2. 研究課題にふさわしい研究方法及び分析が用いられていること。</p> <p>3. 当該研究分野の先行研究を十分に踏まえていること。</p> <p>4. 論文の全体にわたって一貫した論理展開がなされていること。</p> <p>5. 学術論文として体系的・統一的に構成され、単行本または学術雑誌掲載論文として発表できる内容と体裁を有するものであること。ただし既発表のものを含んでもよい。</p> <p>6. 引用文献・参照文献を明示し、適切な表現・表記法に従って記述されていること。</p> <p>7. 独創性を有し、今後、自立して研究活動を行い、学界に対して新たな知見をもって貢献する能力を有すると判定されるものであること。</p> <p>8. 個人情報や倫理に関して適切な配慮がなされていること。</p> <p>上記項目すべてを満たしていると認められる学位申請論文を、口述審査を経た上で合格とする。</p>	
<p>【審査委員の体制】</p> <p>(1) 審査委員会は、主査1名(必ず研究指導担当教員であること)、副査2名以上(研究指導担当教員または授業担当教員)、計3名以上の本学位プログラムの教員から構成される。なお必要に応じて、本学位プログラムの教員でない者(他大学の大学院や研究所等の教員等も含む)を副査として加えることもできる。</p> <p>(2) 審査委員会には、原則として2名以上の教授を含んでいなければならない。その2名の教授のうち1名を本学位プログラムの教員でない教授とすることもできるが、2名以上の教授の半数は本学位プログラムの教授でなければならない。</p>	
カリキュラム・ポリシー	
<p>国際関係論や地域研究、社会学、政治学、経済学、人類学、公共政策学等の各分野を横断する国際公共政策研究の高度な研究力・先端的な専門知識・深い倫理観とともに、人文社会科学の幅広い基礎的素養、人文社会ビジネスにわたる広い視野、社会の多様な場での活躍を支える汎用的知識・能力を養う教育・研究指導を行う。</p>	
教育課程の編成方針	<p>学生の専攻分野を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、大学院共通科目、研究群共通科目から1単位を履修することを推奨する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院共通科目、専門科目(演習科目)などにより、未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力を身に付ける。 ・大学院共通科目、専門科目(演習科目)などにより、俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力を身に付ける。 ・大学院共通科目、専門科目(演習科目)などにより、学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力を身に付ける。 ・大学院共通科目、専門科目(演習科目)などにより、リーダーシップを発揮して目的を達成する能力を身に付ける。 ・大学院共通科目、専門科目(演習科目)などにより、国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲を身に付ける。 ・専門科目(演習科目)、国際公共政策プロジェクト演習、研究指導、博士論文作成、学会発表などにより、人文社会科学分野及び国際公共政策分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力を身に付ける。 ・専門科目(演習科目)、研究指導、博士論文作成、学会発表などにより、人文社会科学分野及び国際公共政策分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力を身に付ける。 ・大学院共通科目(生命・環境・研究倫理科目群)、国際公共政策プロジェクト演習、研究指導などにより、人文社会科学分野及び国際公共政策分野の研究者にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識を身に付ける。
学修の方法・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・学修は専門科目(演習科目)の履修を基本とし、演習でのディスカッションを通じて、自らの取り組む課題に対する高度の専門知識・研究力・国際性を身につけると同時に、知の創成力、コミュニケーション能力、リーダーシップ力といった汎用的な能力を養成する。 ・大学院共通科目の履修を推奨し、汎用的能力や倫理性の養成を補完する。 ・博士論文執筆に向けて、「国際公共政策プロジェクト演習」等を通じた指導教員による論文指導を通じて、マネジメント能力や倫理性の養成を含めた形で各自の研究プロセスを支援するとともに、国内外の学会発表や専門学術誌への投稿といった研究成果の発信を目指すことで、人文社会科学・国際公共政策分野に関わる高度な研究力を高める。

学修成果の評価	<p>ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力の達成度は、以下のように評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年次終了時に履修状況と単位取得状況をチェックし、指導教員およびカリキュラム委員会によって、コンピテンスの達成度を中間評価する。それに基づき3年次における履修指導を行う。 ・博士論文提出時に、各コンピテンスに対応する科目を取得しているかを指導教員およびカリキュラム委員会によってチェックし、最終的なコンピテンスの達成度評価を行う。 ・国際公共政策プロジェクト演習における成果の認定、さらには論文審査の際の口頭試問によって、各コンピテンスが身に付いていることを、指導教員及び副指導教員によって評価する。 ・指導教員・副指導教員を含む複数の審査員による論文審査及び公開発表会により、学位論文が上記の能力に基づくものであり、博士(国際公共政策)を授与して良いと判定できる成果を有しているかを判断する。
アドミッション・ポリシー	
求める人材	<p>修士論文の執筆や社会的経験を通じ、グローバル化・複雑化する世界における現代社会や国際問題について洗練された論理的思考力や専門的知識、多様な社会問題・政治情勢を把握できる感性を身に付け、また、それを基盤として、高度な専門性を実務に積極的に活用し、現代社会や国際関係の諸問題について具体的な政策提言や解決方策を言語化できる高度かつ柔軟な思考力、意欲を備えた人材を求める。</p>
入学者選抜方針	<p>入学者の選抜にあたっては、一般入試、推薦入試、英語の授業のみを履修して修了することを希望する者への特別選抜などの入学者選抜方式によって多様な入学志願者に対応する入学試験を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試では、専門科目及び外国語の筆記試験、並びに口述試験を実施し、総合的に判定する。専門科目は、出願時に申し出た国際関係論・社会開発論・人類学・社会学・政治学・地域研究・経済学など国際公共政策に関係する分野から一つを選択して解答させ、志願者の論理的思考力、研究しようとしている分野の専門的知識、社会・政治問題に対する感性を判定する。口述試験では、修士論文と研究計画書を参考とし、高度な専門性を実務に積極的に活用する能力、社会・政治問題への政策提言を行える高度かつ柔軟な思考力、意欲、研究しようとしている分野の専門的知識に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。 ・推薦入試では、小論文の筆記試験と口述試験を実施し、総合的に判定する。推薦入試は、修士課程等において志願者を指導し、その諸能力や性格、資質などを知悉する教員から、国際公共政策研究に必要な専門的知識や継続的研究能力、外国語運用能力をすでに身に付けているとして推薦された者を対象としている。このため、専門科目や外国語の筆記試験は行わず、研究しようとしている分野の専門的知識や専門実務へ応用できる柔軟性を判定するために小論文の筆記試験を行う。口述試験では、推薦書と研究計画書を参考とし、研究計画の実現可能性、研究への情熱・意欲、研究しようとしている分野の専門的知識、研究に対する資質に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。 ・英語特別選抜では、世界各国の若手行政官、有職者、若手研究志望者など、英語による授業のみを履修して修了を希望する者への特別選抜を実施する。特別選抜では書類審査と口述試験を実施し、総合的に判定する。書類審査は、成績書及び推薦書、並びに研究計画書などに基づき、研究テーマの妥当性、研究計画の実現可能性、研究しようとしている分野の基礎的知識などを判定する。口述試験では、書類審査を踏まえ、研究テーマの妥当性、研究計画の実現可能性、研究への情熱・意欲、研究しようとしている分野の専門的知識、研究に対する資質に加え、英語の運用能力を含むプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。